

# 問 障がい者の方への就労支援策は

## 答 今後いろいろ検討します



加藤亮輔議員

【障害者差別解消法について】

**問** 「障害者雇用促進等に関する法律」で民間企業は2・0％、地方公共団体で2・3％以上の雇用が義務付けられているが、村は現在、何人の方を雇用しているか。

**村長** 現在、1名の雇用。昨年、障がい者枠を設けて募集しましたが、残念ながら応募者がいませんでした。

**問** 長野県の各市町村の雇用状況を見ると、最高雇用率は大滝村で、職員数46人で障がい者3人雇用、雇用率6・52％だが、白馬村は1人の雇用で、67市町村中63番目の1・01％である。あまりにも障がい

者に冷たい雇用状況だが、このような状況を放置してきた原因は。また来年度の予定は。

**総務課長** 採用しなければいけないと考えています。採用について研究します。

**問** 来年度は3名程度雇用できると取り組むべき。

大町市は、1年間嘱託雇用して庁内でのいろんな仕事をチャレンジしながら、本人の希望の職種を見つけるチャレンジ制度。安曇野市は、仕事を見つげるための体験や訓練実習を行う就労移行支援事業所「豊科じゃんぶ」を設立。池田町では地域の事業所へ週1回、1時間職場体験させ自信を持ってもらう「ふれジョブいけだ」を支援して、一般就労への手助けをしている。村では今後どのような制度を作って就労支援をしていく予定か。

**村長** 今後いろいろ検討します。

【地域公共交通について】

**問** 車を運転できない17歳以下の子ども、免許証を

持っていない成人、高齢者、障がい者の方々、それに公共交通で訪れた観光客を含めれば、村内在住移動弱者は相当な数に上る。村は、今後も村民の移動手段を自家用車中心の村づくりを続けるのか。公共交通整備に軸足を移行すべきと考えるが、見解は。

**村長** 村の地域公共交通については、自家用車に大きく依存し、公共交通の利用は低迷しているが、運転しない方や観光客のために平成20年3月に、白馬村地域公共交通会議を設置し、保育園の遠距離園児のための「園児送迎乗合タクシー」、「デマンド型乗合タクシー」、観光客の地域モビリティとなる「定時定路線シャトルバス」の運行事業を行っています。

【子育て支援策について】

**問** ひとり親の子育て世帯への経済的支援策の内容は。

**村長** 生活の安定と自立を助け、子どもの福祉の増進を図ることを目的として、児童



福祉車両の利用拡大を検討すべきでは

扶養手当の支給。保育料は、村民税が非課税の場合は無料に、第3階層中、ひとり親世帯以外に比べ月額10000円の軽減。

また、年収約360万円未満相当は、第1子の場合半額、第2子以降は無料。福祉医療制度については、窓口で支払った一部負担金から1レセプトあたり

5000円を控除した額を、3か月後に支給しています。

**問** ひとり親世帯が74世帯あるが、いま説明された支援策をバラバラに知らせるのでなく、冊子にまとめて保護者に配布しては。

**健康福祉課長** 検討させていただきます。